悠・遊・友、そして意宇
“志人道”を生きる

ゆう科学通信

Vol.26
Feb. 2月
2016年2月1日発行

発行：八雲志人館
〒690-2102
島根県松江市八雲町東岩坂3442-9
電話・FAX 0852-54-1023
E-mail／shijinkan@bell.ocn.ne.jp

一村一志

「夢の芽生える文化」創造のプラットホーム「八雲志人館」は、将来に向けて持続可能な地域を創出することをめざして活動します。

日本とフィリピン

1月26日から30日までの5日間、天皇、皇后両陛下がフィリピンを訪問されました。国交正常化60周年を機会とし、友好親善を深めることが主な目的でした。27日には、太平洋戦でのフィリピン人犠牲者などが眠る「無名戦士の墓」に供花。29日には、1973年（昭和48年）に日本政府によってマニラ郊外に建立された「比島戦没者の碑」に供花されました。

マニラに向かう日本軍戦車隊

膨大な数の無辜の市民が犠牲に

日本とフィリピンの関係は古く、16世紀の豊臣秀吉の時代には、朱印船貿易が行われていました。17世紀には、3000人にのぼる日本人街もできましたが、日本の鎖国令により、フィリピンとの交流は一時途絶えます。

フィリピンは、16世紀末から19世紀末までスペインの植民地でした。植民地時代に、スペイン人はローマ・カトリックの布教を進めました。

1898年に勃発したアメリカ・スペイン戦争により、フィリピンの統治権は、スペインから勝利者・アメリカに譲渡されます。アメリカによる植民地化にフィリピンは猛烈に抵抗しましたが、アメリカ軍により60万人のフィリピン人が殺され（アメリカ・フィリピン戦争＝1899～1902年）、抵抗は鎮圧されました。

1910年代には、農園経営のため日本人が大量に移民し、人口1万人を超える日本人街が形成されていました。

1941年12月8日、日本海軍の真珠湾攻撃により太平洋戦争が始まると同時に、日本陸軍は米軍を放逐してマニラに上陸、1942年にはフィリピン全土を占領しました。

しかし、1944年末には米軍が反攻上陸し、フィリピンは日米の激戦地となりました。111万人といわれるフィリピン人が犠牲になり、日本人も51万8000人が亡くなりました。

「フィリピンでは、先の戦争において、フィリピン人、米国人、日本人の多くの命が失われました。中でもマニラの市街戦においては、膨大な数に及ぶ無辜（むこ）のフィリピン市民が犠牲になりました。私どもはこのことを常に心に置き、この度の訪問を果たしていきたいと思っています」。このたびのフィリピン訪問出発前の天皇陛下のお言葉です。

サンフランシスコ講和条約と天皇誕生日

1945年（昭和20年）、広島、長崎への原爆投下を経て、8月15日、日本はポツダム宣言を受諾し「終戦」を迎えました。9月2日、東京湾上のアメリカ戦艦ミズーリにおいて、降伏文書の調印が行われたのに続いて、その後の日本の「国のかたち」を決める出来事が続きました。

1946年（昭和21年）、極東国際軍事裁判（東京裁判）が始まり、4月29日、日本人戦犯の起訴が行われました。5月3日から審理開始、1948年（昭和23年）11月12日刑の宣告、12月23日絞首刑が執行されました。起訴が行われた4月29日は昭和天皇の誕生日、絞首刑執行の12月23日は平成天皇（当時皇太子）の誕生日でした。

1946年（昭和21年）11月3日、日本国憲法公布、1947年（昭和22年）5月3日に施行されました。

サンフランシスコ講和条約に調印する吉田茂首相

条約調印記念切手（8円）

第2次世界大戦の終結も束の間、東西冷戦の激化を背景に、1950年（昭和25年）6月25日、朝鮮戦争が始まり、1953年（昭和28年）7月27日の休戦まで3年間続きました。

この間、日本では、1950年8月10日、自衛隊の前身である警察予備隊が創設され、1952年に保安隊に改組、1954年7月1日、自衛隊発足という経過をたどりました。

1951年（昭和26年）9月8日、日本と連合諸国49か国との間で、サンフランシスコ講和条約（平和条約）が調印されました。翌1952年4月28日、同条約が発効し、日本は6年間の連合国による占領から解放されました。翌日の4月29日は昭和天皇の誕生日（現在の昭和の日）です。東京裁判の例と同様に、節目の日を天皇家とからめる姿勢が見えます。

講和条約と同時に、日米安全保障条約も締結されました。日本はこの2つの条約により国際社会に復帰したのです。

しかし、講和条約を締結するにあたって、当時の日本は、吉田茂内閣や保守系政党が西側陣営との「単独講和」を推進、共産党をはじめとする左派勢力は東側（共産主義）陣営をも含めた「全面講和」を強く主張、国論が激しく分裂していました。結局日本は「単独講和」を選択し、以後は西側陣営の一員として経済発展を遂げたのでした。

このように4月28日は、日本が国家として主権を回復した日ですが、一方で領土問題に関しては遺恨が残されました。

サンフランシスコ講和条約は、沖縄などの諸島は「米国信託統治下に置く」と定めました。このため条約発効の日を、在日米軍基地問題など沖縄の今日に至る苦難の根源ととらえ、「屈辱の日」と受け止めている人々の存在も忘れてはならないでしょう。

また、条約発効直前の1952年1月18日、朝鮮戦争下の韓国政府が突如として李承晩ラインの宣言を行い、排他的経済水域を設定し、竹島＝独島 に韓国軍が上陸しました。この海域内での漁業は、韓国籍漁船以外許されず、これに違反したとされた漁船は拿捕、銃撃されました。日韓基本条約締結の際の日韓漁業協定の成立（1965年）により、ラインが廃止されるまでの13年間に、韓国による日本人抑留者は3929人、拿捕された船舶数3328隻、死傷者44人に達しました。

マニラ ライオンズクラブの「友情」

戦後の日本に対して、フィリピンから示された「友情」の例をあげます。

サンフランシスコ講和条約発効前の、1952年（昭和27年）3月15日、マニラ・ライオンズクラブのスポンサーにより「東京ライオンズクラブ」が誕生しました。敗戦国日本の組織のスポンサーになる存在などなかった時代に、フィリピンのクラブが名乗りをあげ、日本で初めて設立が実現したのです。

これを皮切りに、表のように日本国内に次々にライオンズクラブが設立されていきました。

こうした経過を経て、日本は戦後世界で経済発展を遂げていったのです。民間団体であるマニラのライオンズクラブが、西側陣営への扉を開いてくれたといえるでしょう。

ちなみに、ライオンズクラブは、1917年6月、アメリカ・シカゴでメルビン・ジョーンズ（保険業）の提唱により誕生した、地域への社会奉仕やドネーション（寄付・寄贈）を理念に掲げる実業家の集団です。現在、世界で4万6000クラブ、会員136万人（日本国内では約3300クラブ、約11万人）を擁する世界最大の奉仕クラブ組織です。

1952年8月	東京ライオンズクラブのスポンサーで神奈川県・横浜ライオンズクラブ結成
1953年2月	東京ライオンズクラブのスポンサーで兵庫県・神戸ライオンズクラブ結成、
4月	神戸ライオンズクラブのスポンサーで大阪ライオンズクラブ結成
10月	神戸ライオンズクラブのスポンサーで愛媛県・松山ライオンズクラブ結成
10月	神戸ライオンズクラブのスポンサーで京都ライオンズクラブ結成
1954年8月	大阪ライオンズクラブのスポンサーで愛知県・名古屋ライオンズクラブ結成
11月	大阪ライオンズクラブのスポンサーで岡山ライオンズクラブ結成
12月	神戸ライオンズクラブのスポンサーで兵庫県・姫路ライオンズクラブ結成
1955年1月	神戸ライオンズクラブのスポンサーで広島ライオンズクラブが結成され、日本のクラブ数は10クラブに達した

許し難きを許す

島根県安来市広瀬町布部に、加納莞蕾（かんらい）という洋画家がいました。従軍画家などを経て戦後に帰郷した莞蕾は、フィリピンから復員した元軍人との出会いをきっかけに、「終戦」によりフィリピン刑務所に「BC級戦犯」として収容されていた日本兵108名（うち死刑囚59名）の釈放助命嘆願をおこし、1953年7月、ついに目的を達成させました。

加納莞蕾

布部という村から送った嘆願の手紙は、当時のフィリピンのエルピディオ・キリノ大統領にあてた38通はじめ、マッカーサー元帥、インドのネール首相、ローマ法王等へあてたものの総数は300通以上に及びました。

加納莞蕾は、キリノ大統領にあててこう書きました。

「閣下　第一嘆願書を奉呈してから200日の間、日本人であるが故に負わなければならない戦争の極悪と罪の意識を反省してまいりました。厳粛な罪の意識と神への深い信念の履行から、裁きの前にある己を認識いたしました。そして『肉体で生きている生活は、神の子としての信念での生活』ということを悟りました。『許し難きを許す』という奇跡によってのみ人類に恒久の平和をもたらし、『目には目を』ということでは決して達成し得ないということを、これまで以上に強く感ずる次第であります」。

これに対し、キリノ大統領は日本人戦犯赦免の際に、次のような声明を出しました。

「私はフィリピン服役中の日本人戦犯にフィリピン国会の賛同を必要とする大赦ではない赦免を及ぼした。私は妻と三人の子供とその他五人の家族を日本人に殺されたため、彼等を赦そうとはよもや思ってもみなかった。私は私の子供や、国民がやがてはわが国の恒久の利益の友となるかもしれない国民に、私から憎悪をうけつがしめないことを欲するが故に、これを行うのである。結局運命が私達を隣人となさしめた」。

いずれもまことに深く、重い、心揺さぶられる言葉が記されています。

このたびの訪問の際の晩餐会で、天皇陛下は日米の熾烈な戦闘で多くのフィリピン人が犠牲になったことに言及し、キリノ大統領の「声明」に響き合うような、こんな言葉を述べられました。

「私ども日本人が決して忘れてはならない」。

戦後を生きる私たち日本人の一人ひとりが心に刻むべき言葉ではないでしょうか。

（交易場修）

平和の花　スノードロップ　プロジェクト

春を告げる花 スノードロップ

さらさらと心地よい渓流の音、川底の小さな石たちのせせらぎが
水の交響曲を奏でる。岩を乗り越えて溢れ落ちる水飛沫は、
白い衣装をまとった妖精たちの乱舞。踊り疲れて
岸辺で休んでいると凍てつくような雨が降り、
螺旋状を描いて河原風が吹く。
痛めつけられた妖精たちは白い粉雪になった。
哀れんだ太陽の神は春を告げる
スノードロップに姿を変えてくれた。
雪の雫・雪の鐘・待雪草とも呼ばれている花。
夜になると花弁を閉じ日中に吸収した温かい
空気を溜め込む。可憐な白い小さな花弁が
雪を割って顔を出すと、待っていたかのように
陽の光は、その年の最初の花と褒め讃えた。
この花に出会うと新しい年は幸運に恵まれるとの伝説が
残されている。意宇川の岸辺に植えられたスノードロップの花。
花言葉にも似て、周藤彌兵衛が切り開いた岩山の水流の音と共に、
「希望と慰め」を見せてくれる。

作：原美代子

雪とスノードロップ（1月26日撮影）

〈後記〉
「ゆう科学通信」は皆様からのご意見、情報を礎に発信していきます。
ご投稿はメール、ファクスでお願いいたします。